

宗内寺院紹介 51

近畿教区第二部

槇尾山仙薬院

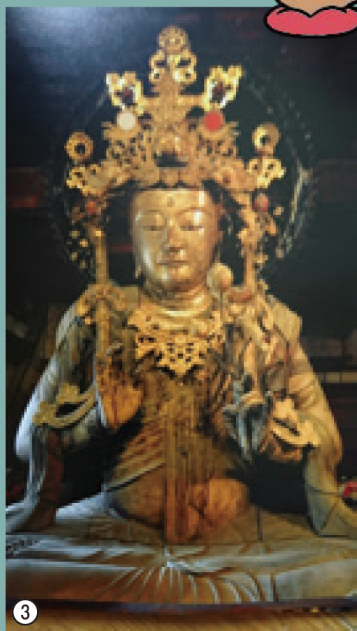
施福寺



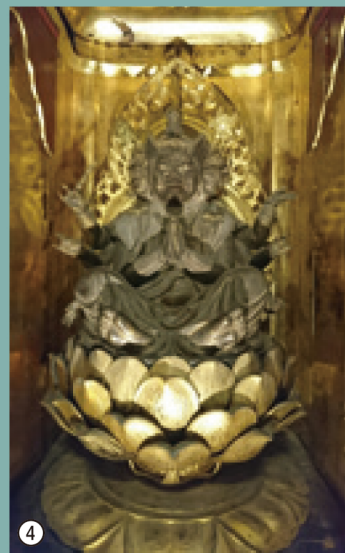
①



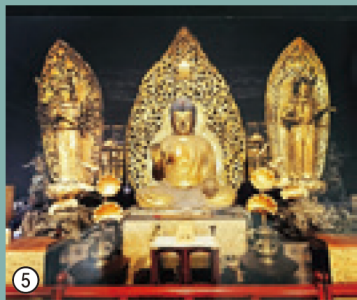
②



③



④



⑤

①山門 ②元三大師 ③方違大観音 ④花山法皇足守の馬頭 ⑤本尊三尊仏

近畿教区第二部
槇尾山仙薬院 施福寺住 所 / 〒594-1131 大阪府和泉市槇尾山町136
電話番号 / 0725-92-2332

日本国家の源郷、纏向の三輪山北側に巻向山の穴師兵主神社があり航海の安全と戦勝を祈願する神で、古代においてこの神を当山に勧請し磐筒男の神としてまつり「巻向山の神をまつる山なので巻尾山と号した」近代になり槇尾山と書きかえられた。寺の歴史は古く仏教公伝（五三八）より少し後、欽明天皇の勅願により加古の行満により創建された。古代において纏向から紀の川を下り現在の泉南市、男の水門から槇尾川の河口大津の港で大陸に向うため当山で航海の安全と戦勝を祈願し準備をととのえ明石海峡を越え加古川に至り上流を遡り氷上の石生、日本一低い九十五メートルの分水嶺を越え由良川を下り伊根筒川に至って半島から中国大陸に至る古代一大ルートがあり、加古川は海上交通の要所であった。奈良時代は茅渚の山寺と記録され加古の行満が弥勒を本尊とし、行基が文殊菩薩を行基の高弟法海が大津の浦に紫の雲をたなびかせて出現した十一面千手眼観世音菩薩を西国四番札所の本尊としてまつった。日本唯一方違大観音、日本唯一花山法皇足守の馬頭、元三大師の御木造をおまつりしています。元三大師の高弟覚超僧都は槇尾の山麓、横山郷の池辺氏から出られた。